

### 3 学校における子どもの読書活動の推進

#### (1) 学校の役割

学校においては、国語などの各教科、特別活動、総合的な学習等の時間を通じて、読書活動が行われてきており、子どもの読書習慣を形成していく上で大きな役割を担っています。

学習指導要領においては、小・中学校国語科で、児童生徒の発達段階に応じて、「楽しんで読書しようとする態度の育成」や「読書に親しみものの見方や考え方を広げようとする態度の育成」などを目標としています。

また、児童生徒の調べ学習など多様な学習活動を展開し、主体的・意欲的な読書活動や学習活動を充実するために、「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図る」としています。

学校図書館は、児童生徒の自由な読書活動や読書指導の場として、さらに豊かな感性や心を育む「読書センター」としての機能と児童生徒の自発的・主体的な学習活動を支援する「学習情報センター」として機能を果たし、学校教育の中核的な役割を担うことが期待されます。

#### (2) 現状と課題

「平成18年度子どもの読書活動推進に関する調査報告書」において、次の現状と課題が見えてきました。

##### ① 学校図書室（館）状況調査から

###### ● 蔵書について

野辺地町の学校図書館については、平成18年度末において、国が定めた学校図書館の標準的な蔵書冊数「学校図書館図書標準」を達成している学校はありません。各校では、計画的に図書を収集し蔵書の充実に努めることが望まれます。町では、文部科学省が新学校図書館図書整備5か年計画で措置する地方交付税を適切に図書費として予算化する必要があります。

学校図書室（館）の状況調査によると、図書室の利用が年々減っている学校は、「新しい本があまりない」「子どもの読みたい本がない」ためと回答しています。

###### ● 司書教諭について

学校図書館の司書教諭の配置状況については、小学校2校、高校2校が配置されていますが、何れも兼任となっています。そのため、学校図書室（館）の開館時間や開館日数に制限ができています。司書教諭の授業数等の軽減を措置する、専任の司書・司書教諭を配置する、11学級以下の学校でも司書教諭を配置するなど、司書教諭を活かす学校運営が求められています。

###### ● 朝の読書について

平成18年度において、全校一斉の読書活動「朝の読書」に取り組んでいる学校は、小学校3校、中学校1校の全校で実施しています。高校では2校中、1校が実施しています。このことによって「子どもたちの読書意欲が高まった」「落ちついた雰囲気の中で授業が始められる」「集中力がついた」のメリットがあげられています。子ども達からは、本を読むことが好きになった理由の1つとして、「学校で朝の読書をするようになったから」との回答が小学生47%、中学生37%、高校生34%ありました。子どもが、本に親しむためには、子どもが本を読む時間の確保が大切です。今後は、さらに、実施回数を増やす、教員も一緒に朝

の読書をするなど内容や方法の改善が望まれます。

● 学校図書室（館）における読書活動について（複数回答）

内 容	実施学校数	内 容	実施学校数
本の展示	5	多読書賞などの利用促進	2
新刊図書やお薦め図書の紹介	5	おはなし会・朗読会の開催	1
図書室だよりの発行、PR活動	4	本の読み聞かせ	3
調べ学習への支援	3	ブックリストの作成	1
読書感想文コンクールの実施	2	読書週間行事等の開催	1

図書室（館）の利用が年々増えている学校は、「新しい本の購入や寄贈などで本が増えた」他に「授業で調べる機会が多くなった」「読書週間行事など多様な読書活動を行っている」と回答しています。

● 読書関係ボランティアについて

読書関係ボランティアを受け入れている学校は2校です。受け入れ内容は、「読み聞かせや本の朗読」が2校、「図書室の環境美化」「本の整理」等が1校です。PTAや地域ボランティアの受け入れは、多様な読書活動が展開でき、図書室（館）の活性化にも繋がります。積極的に活用することが望まれます。

● 図書館との連携について

下の表の①は「現在図書館との連携で行われている読書活動」（複数回答）の学校数で、②は、「図書館に望む今後の支援内容」（複数回答）を学校数で表しています。

尚、今回の状況調査の回答には出てきませんでしたが、調べ学習の支援や教職員対象の読み聞かせ等研修会、子ども対象の朗読指導などは、学校の希望により実施されています。

内 容	①	②	内 容	①	②
図書館からの本の配本・団体貸出	3	2	職場体験（受け入れ）	1	1
図書館見学	3	—	移動図書館車による貸出	—	1
本の読み聞かせ	2	—	調べ学習の支援	—	2
図書館行事の案内	3	2	ブックトーク	—	2
図書館新着図書案内	1	1	推薦図書リストの配布	—	1
図書館利用案内	1	0	特になし	1	1
教職員対象の読み聞かせ等研修会	—	—		—	1

学校が図書館に望む支援は、図書の補充として本の配本や団体貸出です。また、遠隔地の学校は移動図書館車による貸出支援を望んでいます。学校におけるブックトーク※は、不特定多数の子どもを対象とする図書館よりもクラスや同学年でできるため、子どもの興味を直接導き出せるため有効な方法です。

※ ブックトークとは、テーマに沿って系統立てて本を紹介していき、本を手にとって読んでもらうことを目的とした方法の1つです。

## ② 子どもの読書アンケートによる学校図書室（館）の利用について

### ● 学校図書室（館）を利用するか

学校図書室（館）へ「よく行く」「時々行く」小学生は64%ですが、中学生や高校生の85%は、「ほとんど行かない」「行かない」でした。さらに学年別で見えていくと、学校図書室（館）を利用しているのは低学年であり、小学4年生頃から利用する割合が減り、中学校1年からさらに利用が少なくなっています。

### ● 学校図書室（館）の利用目的

学校図書室（館）の利用目的は小学生と中学生は、「本を読んだり借りたりするため」が最も多く、次に「自分の知りたいことを調べるため」でした。高校生は、「宿題や勉強をするため」利用している生徒も多くいました。

### ● 学校図書室（館）を利用しない理由

約62%の子どもたちは、「友達と遊んだり、話をしている方が楽しいから」と回答しています。次に「図書室に読みたい本がない」と回答した子どもの割合が高く、小学生39%、中学生51%、高校生31%でした。

### ● 学校図書室（館）への要望（多い意見を掲載）

小学生	新しい本を増やしてほしい	54名
	おもしろい本や楽しい本を増やしてほしい	30名
	本を増やしてほしい	15名
中学生	もっと新しい本を増やしてほしい	62名
	もう少しおもしろい本やみんなが読みたくなるような本を置いてほしい	49名
	マンガをもっと増やしてほしい	19名
	本を増やしてほしい（うち本が少ない4名）	19名
高校生	もっと新しい小説など本を増やしてほしい	14名
	もっと楽しい面白い本を増やしてほしい	6名

その他の意見で多かったものは、「本の場所をもっとわかりやすいようにしてほしい」「本の整理をしてほしい」「古い本が多い」「雑誌を入れてほしい」「いろいろな種類の本をもっと置いてほしい」でした。

### ● アンケート調査から

子どもたちが最も学校図書館に望むことは、新しい本や自分たちが読みたい本がたくさんある図書室（館）でした。小学生の低学年では、図書室をよく利用しており、読みたい本や楽しい本がたくさんあると思っていますが、学年が上がるにつれ、自分たちが読みたい本は、図書室にないと感じています。限られた予算の中でも、調べ学習用の参考図書や基本図書に加え、子どもたちにとって魅力的な本を選書するなどの配慮が必要です。「子どもが好きな本・作家」に関しては、図書館の現状と課題の欄及び「野辺地町における子どもの読書活動に関する調査報告書」の12ページをご覧ください。

### (3) 学校に求められる取組の考え方

#### ① 読書環境の整備・充実

学校において、児童生徒の豊かな心や創造力を育成する読書活動や児童生徒の自発的・意欲的な学習活動を支援するためには、魅力ある図書資料を充実するとともに、児童生徒が快適に図書室(館)を利用できるスペースの工夫が大切です。障がいのある児童生徒に配慮した図書資料の充実も欠かせません。また、児童生徒と本を結び、学校図書館の運営・活用について中心的な役割を担う専門の司書・司書教諭の配置など読書環境を整備することが必要です。

#### ② 読書に親しむ機会の提供

各学校では読書活動の充実のため、様々な工夫された取組が進められていますが、小・中学校においては、児童生徒が読書を楽しみ、読書に親しむ態度や読書習慣を育成することが大切です。学校においては、全校一斉読書や読み聞かせ、文学作品の暗唱など、子どもが読書の楽しさを体感する機会を積極的に作り、日常的に行われるよう努めることが求められます。

高等学校においては、各教科、特別活動、総合的学習の時間など様々な教育活動を通じて、生徒の主体的・意欲的な読書活動を充実させることが大切です。

#### ③ 教職員の意識の高揚・協力体制

児童生徒の読書活動を推進していくためには、教職員が読書活動の意義について理解を深めるとともに、学校図書室(館)活用や読書指導についての校内研修や研究会を行い、教職員の意識の高揚を図っていく必要があります。また、学校教育の中核的な学校図書館の運営・活用に当たっては、校長のリーダーシップの下、司書教諭が中心となり、すべての教職員の連携・協力体制を確立し、充実を図っていくことが重要です。

#### ④ 家庭(PTA)、図書館、読書ボランティア、地域等との連携・協力

児童生徒の読書活動を推進していくためには、学校のみならず、家庭で読書することの理解の促進を図ることが大切です。家庭との連携・協力による「ファミリー読書デー」の設定など、効果が期待されます。また、地域の読書ボランティアやPTAボランティアなど外部の人材の協力を得ていくことや図書館との連携・協力により、児童生徒の読書に親しむ態度の育成や多様な読書活動の推進が可能となります。

#### ⑤ 学校図書館の情報化の推進

学校図書館を効果的、効率的に運営する上で、コンピュータの設備は欠かせません。貸出・返却・蔵書管理、蔵書検索を迅速・的確に行えるとともに、インターネットの活用により、児童生徒の調べ学習などの活動を展開していく上で、大きな効果があります。また、他校の学校図書館や図書館等とオンライン化することにより自校のみならず、町全体での蔵書の共有化や資料の検索、児童生徒の多様な興味や関心に応える蔵書の整備等が可能になります。

### (4) 重点施策と施策内容

町では、子どもの読書活動を「学校教育指導の方針と重点」の重点事項の一つとして位置づけ、その運営の支援と推進を図っていきます。

## ① 児童生徒の読書環境の整備・充実

- 図書・資料の充実
  - ・調べ学習用参考図書の充実 ・児童生徒に魅力的な図書等の充実
  - ・障がいのある児童生徒へ配慮した図書等の充実
- 学校図書館図書標準の達成、学校図書館メディア基準の達成
- 人的環境の充実
  - ・図書室（館）担当教諭の職務の軽減 ・11学級以下の学校への司書教諭の配置
  - ・専任の学校司書、学校図書館協力員の配置 ・教職員の協力体制の充実
- 快適な読書スペースの創出
  - ・読書環境の工夫と美化 ・情報機器、AV機器の整備
- 推薦図書コーナーの設置と本の展示
- 団体貸出・配本の活用
- 学校図書室（館）の情報化の推進
- 移動図書館車の整備

## ② 児童生徒が読書に親しむ機会の提供

- 全校一斉読書の促進（「朝の読書の時間」の確保と充実）
- おはなし会・読み聞かせ会・朗読会・児童による文学作品の暗唱会等の開催
- ブックトークの実施
- 読書感想文コンクールへの応募

## ③ 児童生徒の読書活動に関する理解と関心の普及と啓発

- 教育委員会施策における学校の読書教育の明示
- 学校教育計画における学校図書館教育の設定
- 各種図書館だよりにおける児童生徒への読書活動の啓発
  - ・学校図書室（館）だより ・わんぱく図書館だより「わくわく」
  - ・図書館通信「ティーンズ」
- 家庭における子どもの読書活動の啓発
  - ・各種広報誌を利用した啓発
  - ・参観日、PTA集会等における読書講演会等の実施
  - ・「読書週間」「子ども読書の日」の啓発
- 教職員の読書研修会の実施
- ブックリストの発行



## ④ 児童生徒の読書活動を推進するための連携・協力

- 家庭（PTA）との連携・協力
- 図書館との連携・協力
  - ・図書館見学 ・職場体験 ・調べ学習 ・共同推薦図書リストの作成
  - ・学校と図書館との連絡会の開催
- 読書ボランティアとの連携・協力
- 地域との連携・協力
- 学校図書館協議会の組織化と開催



## 施策内容

### ① 児童生徒の読書環境の整備・充実

事業名	ねらいと内容	所管	状況
図書・資料の充実	調べ学習等に必要な参考図書及びロングセラーなどの基本図書に加え、児童生徒の多様な興味や関心に応える魅力的な図書等の充実に努めます。また、障がいのある児童生徒が豊かな読書活動を体験できるよう、図書等の整備に努めます。選書にあたっては、全教員の共通理解のもと、図書の計画的な整備を図ります。さらに、視聴覚資料、コンピュータ・ソフト等各種メディアの整備にも配慮します。	学校	拡充
学校図書館図書標準・学校メディア基準の達成	文部科学省が新学校図書館図書整備5か年計画で措置する地方交付税を図書費として、予算を確保するように努めます。また、学校メディア基準も視野に入れた達成に努めます。	町学校	新規
人的環境の充実	児童生徒がいつでも利用でき、児童生徒の多様なニーズに応え、魅力ある図書室運営を図るため、図書室（館）担当教諭の職務の軽減に努めます。また、11学級以下の学校への司書教諭の配置に努めます。さらに、専任の司書教諭や学校司書、学校図書館協力員を配置するように努めます。学校図書室（館）の機能を十分発揮するため、教職員間の連携・協力体制の充実に努めます。	町学校	新規
快適な読書スペースの創出	児童生徒が必要な本を探しやすいサインの工夫や配架、壁面構成など読書環境の美化を図るとともに、児童生徒が自由に読書を楽しみ、くつろいで読書できるスペースの創出に努めます。また、情報機器、AV機器など設備の充実に努めます。	学校町	拡充
推薦コーナーの設置と本の展示	推薦図書コーナー及び各種テーマと季節等による本の展示と貸出を行い、子どもの読書意欲を促進します。	学校	継続
団体貸出・配本の活用	青森県立図書館の子どもの読書活動推進のための図書セット「朝の読書用図書」や図書館からの配本を活用し、図書の補充に努めます。	学校図書館	2校活用
学校図書室（館）の情報化の推進	蔵書の効果的活用を図るため、国の補助事業などを活用し、学校図書館システムによる図書の管理や貸出、調べ学習に対応した図書検索やインターネットの活用を行い、迅速、効率の良い図書室（館）運営に努めます。また、将来的に図書館、学校間とのネットワークを構築し、資料や蔵書データの共有化と物流も視野に入れた活動の展開に努めます。	学校町図書館	1校実施
移動図書館車の整備	図書館から遠距離にある学校等への館外サービスの向上を図るため、移動図書館車の整備に努めます。	図書館町	新規

## ② 児童生徒が読書に親しむ機会の提供

事業名	ねらいと内容	所管	状況
全校一斉読書の実施	「朝の読書」など日常的に児童生徒が本に親しむ機会を一層普及し、児童生徒が読書する楽しさを知るとともに、児童生徒の読書の習慣化を図ります。	学校	5校実施
おはなし会・読み聞かせ会・朗読会・文学作品の暗唱会等の開催	読書週間や「朝の読書」でのおはなしや読み聞かせを通して読書に親しむ機会を創出し、児童生徒の読書意欲を高める取組の一層の充実に努めます。読み聞かせ等にあつては、ボランティアの活用とともに、教職員による読み聞かせにも努めます。また、学校図書館祭りなどの開催にあつては、高学年の児童が低学年の児童に読み聞かせを行うなど児童間の異年齢の交流にも努めます。児童による古典や文学作品の暗唱の取り組みなども推進します。	小学校	3校実施
ブックトークの実施	クラスや学年など同年齢を対象に「テーマ」による多様な本の紹介を行い、児童生徒に対する興味や関心を高め、読書意欲の促進を図ります。	図書館 学校	新規
読書感想文コンクールへの応募	読書感想文に関しては、保護者のアンケートで賛否両論がありました。自分が感じたことを文章で表現することは理解が深まり考えが明確になります。現代の児童生徒は文章を書く機会が減少しているため、文章による表現力の低下が指摘されています。学校においては、児童生徒が読後の感想を文章に表す喜びを体感できるような指導に努めます。	学校 地域 図書館	継続

## ③ 児童生徒の読書活動に関する理解と関心の普及・啓発

事業名	ねらいと内容	所管	状況
教育委員会施策における読書教育の明文化	野辺地町教育委員会施策においては、学校教育の方針と重点の中に「子どもの読書活動」を明確に位置づけ推進に努めます。	教育委員会	新規
学校教育計画における学校図書館教育の設定	学校においては、教育計画の中に学校図書館教育を設定し、学校図書館教育指導の目標や重点、読書指導計画や図書室の運営に関し明示し、周知を図ります。	学校	2校作成
各種図書館だよりの発行	学校図書室（館）においては、学校図書室（館）を利用するためのマナーや使い方、本の配置などを周知するとともに、子ども自身によるおすすめの本の紹介なども行い、児童生徒の読書意欲を促すよう働きかけます。 図書館においては、わんぱく図書館だよりの「わくわく」や図書館通信「ティーンズ」を発行し、図書館行事やおすすめの本の紹介を行い、児童生徒の読書活動に対する興味や関心を高めます。	学校 図書館	5校実施



家庭における子どもの読書活動の啓発	学校図書室（館）を始め、学校・学年、学級だよりの中でも読書の啓発や本に関する紹介を積極的に行うとともに、参観日、PTA集会の活動の中に読書講演会などを設け、子どもの読書活動の意義や大切さなどの理解の啓発に努めます。また、「読書週間」や「子ども読書の日」の機会を活用し啓発に努めます。	学校 P T A	拡充
教職員の読書研修会の実施	研修会などを通し、教職員の子どもの読書活動の理解と関心を深めるとともに、自らも実践し、読み聞かせや朗読技術の向上や読書指導の充実に努めます。また、学校図書館の活用や読書指導について、先進的な取組に関する情報交換や研究協議を行い教職員の意識の高揚を図ります。	学校 図書館	2校 実施
ブックリストの発行	学校図書室（館）や全教職員がすすめる本、図書館推薦図書を紹介を行い、児童生徒の読書意欲を高めるように努めます。	学 校 図書館	1校 実施

#### ④ 児童生徒の読書活動を推進するための連携・協力

事業名	ねらいと内容	所管	状況
家庭との連携・協力	親子で読書に親しみ、楽しむためのきっかけ作りとして、読書デー（ウイーク）の実施や夏休み期間を利用し、家族で読んだ本を読書カードに記入するなど家庭との連携した読書活動に努めます。	学校 家庭	1校 実施
図書館との連携・協力	図書館見学、職場体験、調べ学習の相互協力、学校と図書館との連携会議の開催や学校と図書館共同による推薦図書リストの作成などを行い、より良い子どもの読書活動推進を図ります。	学校 図書館	拡充
読書ボランティアのとの連携・協力	授業や朝の読書における読み聞かせ会の実施や図書室の充実のため、PTAの読書ボランティアや読み聞かせ活動団体を活用し、子どもの読書活動を推進します。	学校 ボラン ティア	2校 実施
地域との連携・協力	野辺地ロータリークラブ主催の読書感想文コンクールの周知、作品の取りまとめや原稿用紙の使い方など作文の基本的指導を行い、協力を努めます。	団体 学校 図書館	継続
学校図書館連絡協議会の組織化と開催	学校図書室（館）活性化や推進にあつては、学校同士の連携も大切です。学校図書館連絡協議会を組織し、よりよい学校図書館（室）運営に努めます。	学校	新規



「朝の読書」で読み聞かせ



学校教育支援ボランティア